

IV 新規指定文化財

明野村新規指定文化財

①. 長清寺古寺跡

所在 地 明野村小笠原1151番地外

所 有 者 長清寺

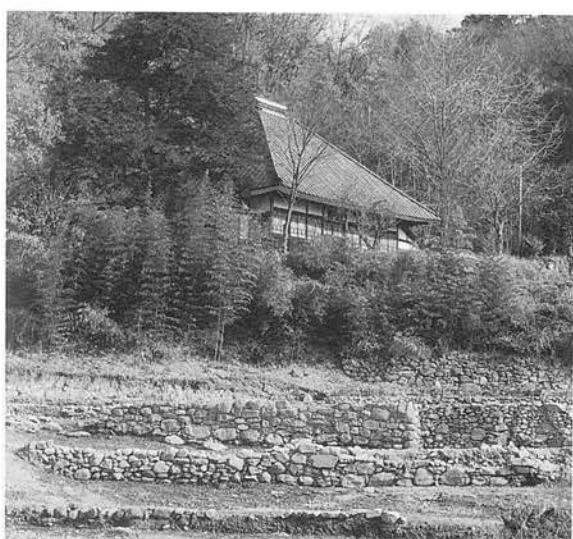
指定年月日 1999年10月28日

平成10年度の本年報発掘調査速報に掲載した深山田遺跡で発見された石垣が、明野村文化財（史跡）に指定された。深山田遺跡が所在した小笠原字深山田周辺では、真言宗福性院、曹洞宗長清寺、臨済宗淨林寺が林立し、福性院は盛時、長勝坊、清昌坊、別当坊、疣地藏坊、寺家坊、東正坊、法泉坊、千蔵坊、新光坊の十一坊を有する大刹であったといい、長勝坊は長清寺の前身と考えられる。深山田遺跡では、密教法具「六器」と思われる銅製碗14口が出土し、寺院跡と考えられる。石垣が検出されたのは、深山田遺跡調査区東端で現長清寺に隣接する水田である。水田は長清寺所有で、檀家一同の管理地となっていた。

石垣は4列が検出された。建物基壇の石垣は、高1.7メートル、幅20メートルで、げんのう打ちによる小さな整形があるものの割石は一切用いず、角部は算木積み手法がみられる。根石下にはアカマツを用いた胴木が敷かれている。平場上には建物跡と思われる石列が検出され、17世紀前半の肥前産青磁盤の破片が出土している。その他の石垣は、上述の石垣に積み足しており、裏込めから18世紀代の瀬戸産丸碗片が出土している。

長清寺は寺伝によると慶長五年創立とされる。慶応四年寺社御役所宛寺記によると、本堂、庫裏、土蔵、惣門、雪隠、觀音堂除地、大休庵境内除地、境内山林除地、御黒印四百拾六坪、除地式反式畝拾五歩、除地式反歩古寺跡の堂宇、地所を有したとされ、「明和二酉年当地江再建」と注書きがある。文中の「古寺跡」も注書きと思われ、慶応四年時点での古寺跡である。長清寺檀家には、竹藪を開いて現在地に寺を再建したとの伝承が残る。今回検出された石垣は、この「古寺跡」に比定されると思われる。長清寺は、慶長八年には「長昌寺」と名乗り、三之蔵諏訪明神社の天正三年棟札には「長昌庵」が見える。いずれも福性院十一坊の

ひとつ「長勝坊」と同音で、長清寺創立の経緯を示すと思われる。



長清寺古寺跡と現在の長清寺



長清寺古寺跡石垣

小淵沢町新規指定文化財

小淵沢町教育委員会は、平成10年度に次の2件を文化財に指定した。2件ともに江戸時代の所産である。一つは工芸品で、一つは石造物である。

②. 高野八幡神社所蔵太鼓(2ヶ)

所 在 地 小淵沢町高野8702

所 有 者 高野区

指定年月日 1998年7月23日

2寸五尺長胴太鼓

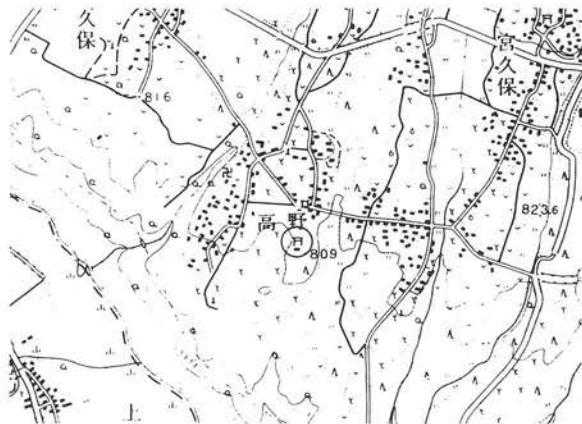
太鼓内墨書銘 「嘉永四年 御太鼓細工 台

ヶ原 久藏 代金拾両

明治四年 台ヶ原宿 張替 久藏 敬白」

2尺長胴太鼓

太鼓内墨書銘 「細工人 台ヶ原宿 久藏 慶応元年 八月吉日 一金八両」



江戸末期に小淵沢村の名主を努めた赤松多典によって八幡神社に納められたもので、ケヤキをくり抜いて作られ、作者名まで判明している貴重な歴史的工芸品である。

③. 高野八幡神社拝殿北側所在の文字道祖神

所 在 地 小淵沢町高野8702

所 有 者 高野区

指定年月日 1998年7月23日

八幡神社拝殿北側にある文字道祖神で、この道祖神について「山梨県の道祖神」の中で、著者の中沢厚氏は「珍しい一個の文字道祖神が小淵沢町高野に鎮座している。甲斐駒ヶ岳と対峙して、眼下に釜無川を見下ろすような八幡神社の右手の山林中に、双神像と、これも道祖神であろう一神像があり、その間に位置した石塊がそれである。縦八十センチ、横六十七センチ、角ばった大石の一面に、書体で道祖神の三字を彫っている。その道祖神の神の字のすぐ下に十センチ弱の小穴が一つ開いている。覗いてみると石塊は空洞らしく、かすかに明るいのはおそらく空洞は下部に抜けているのであろうが、大石塊だから、動かばこそ調べるわけにはいかぬ女性の胎内を意味する、かかる空洞石こそそれだけで道祖神の資格充分というわけである。ここでなお興味のあるのは刻まれた三文字の形である。亀甲文風な特異な筆運びは、「道」の字と「神」の字を部分的に女陰形に表し、「祖」の字の且を男根形に書いているのである。御念のいった、かかる文字碑は今のところ県内でただ一つである」と述べられていて、書体の文字道祖神は数が少なく貴重である。